

STRUM

シュトウルクム

第45号

令和1年10月7日発行

10月に入ってから季節外れの暑さも収まり、ようやく秋らしい季候になってきました。コンサートに来られなかった皆さん、伊都さんの写真を見て「あら！」とお気づきになったでしょうか？ 長い髪をバツサリ切って、大人っぽい雰囲気に変身した伊都さん、10月22日には横浜市の共催を得て、多才な人たちとのコラボで、ヴァイオリンの音色の新たな可能性を披露します。

近況報告



第16回 Wiener Wind Concert が皆様に支えられて、今年も盛況のうちに終えられましたこと、心から感謝申し上げます。

コンサートの中でも話をしたのですが、コンサートのタイトル「Wiener Wind」はドイツ語でウィナーヴィント、かちこち発音のドイツ語だとなんだか堅苦しく聞こえますが、「ウィーンの(wiener)風(wind)」という意味で、ウィーンの街は周りをウィーンの森(丘)に取り囲まれ、盆地の地形によるものか、丘から吹く風がまさに一陣の風が舞い降り、思わず足を止めてしまうほど強く人を巻きこみ、景色をゆらし、一瞬で街を吹き抜けて、跡形もない、そしてまたすぐにどこからともなく違う風が舞い降りてくる、ウィーンはまるで風がちょっと気の強い生き物のように生息している風の街なんだという留学時の第1印象によるものです。

地元横浜も風の通り抜ける街ですが、海の影響でしょうか、その風はふわりと柔らかで、湿り気を含んでいて、またイギリスはあまり風が吹かないけれど、一日に一度必ずやってくる雲と雨に風が加わると、なんとも荒々しく手に負えないものが来たぞと少し戦闘的な気分になり、風というのはスパイスのようにその町の、その景色の、そして様々な思い出に色付けをしてくれるものだと感じます。

コンサートのコンセプトにも設定した、今話題のダイバーシティ(多様性)という言葉の意味を考える時、風が景色に輪郭をあたえるように、命あるもの、そして自然が成す多様な様子に、音楽がその個性を浮かび上がらす一つのエッセンスとなれば良いと願いつつ、今年は12月23日、みなとみらいのリサイタル、そしてその前10月22日の横浜市音祭りのイベントで音を奏でていこうと思っていますので、演奏を聞いて頂くことができましたら幸いです。

【伊都】

Wiener Wind ~初秋のタバウィーンの風に吹かれて~

9月22日夕方5時、台風が日本海を通過したことで、時折り風雨が強まる空模様の中、山手のユニオン教会でコンサートは開演しました。今年の伊都さんの選曲メッセージは…

ダイバーシティ(多様性)の流行りにのっかり、ウィーン原産のワルツや古くより夕暮れと共に奏でられていた音楽セレナーデ(小夜曲)も、多様な曲があること、ちょっと珍しい選曲も入れつつ(一番無名のカルメン幻想曲など)またドイツで新聞種になってしまった恐ろしいノミに(日本脳炎のような症状を引き起こす)うっかり刺されてしまった時に弾いた思い出深いオルガンとの曲「タバの歌」や、そしてロシアやアメリカの有名なメロディーが取り込まれた楽しい曲で、ちょっと荒れた天候のコンサートでしたが、様々に変化するヴァイオリンの音を聴いて頂けたかなと思います。

なるほど、前半はワルツ4曲、セレナーデ3曲を聴き比べ、フバイのカルメン幻想曲で締めましたが、カルメン幻想曲も多様!ということがよくわかりました。伊都さんの思い出深い「タバの歌」、ユニオン教会の「黒田オルガン」は今ではもう製造されていない足踏み式の貴重な音、天井から降るような教会独特の音響効果で、心が洗われるような音色でした。ヴィエニアフスキ:モスクワの思い出は「赤いサラファン」のメロディ、最後のヴェータン:アメリカの思い出は、日本では「アルプス一万尺」で有名なアメリカ民謡「ヤンキードゥードゥル」を主題とした変奏曲です。誰もが知っている旋律が愉快地、伊都さんお得意の超スピードで変奏されていき、会場が大いに盛り上がりました。

横浜音祭り 2019 公募サポート事業

主催 加納伊都リサイタルオフィス
共催 横浜アーツフェスティバル実行委員会YOKOHAMA
OTOMATSURI

Violin infinity

2019年 10月 22日 (火祝) 19時開演

3,000円 (飲物付) 横浜市イギリス館 横浜市中区山手町 115-3

Violin 加納伊都 × 絵・写真・詩・三味線・香り

♪ Violin × 絵・写真

With Painter 周平 : 中国出身 フランス芸術家協会展ル・サロン 2018 入選など受賞歴多数
Photographer 集田大輔 : PDN EXPOSURE AWARD (アメリカ) 入選, など受賞歴多数

♪ Violin × 詩

キーツ, シェイクスピア, 他リリカル&リズムカルな英詩を、原語と日本語で朗読

♪ Violin × 津軽三味線

With 津軽三味線 山本竹勇 : 名匠・高橋竹山の流れを汲む津軽三味線の名手

♪ Violin × アロマ

With Natural Therapist カオリ : 権威ある英国 IFPA 認定アロマセラピストの資格をもつ自然療法家

座席予約・問い合わせ: 加納伊都リサイタルオフィス Mail: info@itokanoh.com Fax: 045-621-6423
住所、氏名、メールアドレス (電話番号)、希望座席数を明記の上お申し込みください

第 17 回 加納伊都ヴァイオリンリサイタル

2019年 12月 23日 (月) 18:30 開場 19:00 開演 横浜みなとみらいホール小ホール

一般 3,000円 学生 2,000円

Piano 松尾久美

タルティーニ: 「悪魔のトゥリル」ソナタ

ラヴェル: ヴァイオリン・ソナタ

ワックスマン: カルメン・ファンタジー 他

11月初旬にご案内をお送りします



DVD Classic Collection

作品 No.38

「愛情物語」The Eddy Duchine Story

1956年 アメリカ

実在のピアニスト エディ・デューチンの物語



あらすじ

ピアニストとして生計を立てようとニューヨークにやって来たエディ。彼は資産家の令嬢マージョリーに見出され、オーケストラで演奏することに。やがて2人の間には恋が芽生え結婚。息子ピーターが生まれたエディは、順風満帆な人生を送っていくように思われたが…

見どころ

1930年代から20年間にわたりアメリカで一世を風靡したピアニストを主人公とした映画で、タイロン・パワー、キム・ノヴァク主演のハリウッド黄金期の名作。主題曲の「To Love Again」はショパンのノクターン第2番をアレンジした、ある程度の年代以上の方なら誰もが知っている名曲。吹き替えをしたカーメン・キャバレロはエディ・デューチンを崇拜し、その演奏に近づけたという。

感想

カーメン・キャバレロの吹き替えに合わせたタイロン・パワーの指の動きが凄い! 普通は指と顔は別々に撮っているものだが、どれだけ練習したの? と驚く。物語は、幸福の絶頂からの絶望や息子との確執、ピアノを通じて取り戻す親子の絆、再び手にする愛と苦悩…波乱に満ちた生涯だが、題名の通りある意味、愛情には恵まれた人だったのかもしれない。主演のタイロン・パワーはこの映画の2年後、44歳の若さで心臓麻痺のため急逝してしまうことも感慨深い。

*DVDはTSUTAYAの店舗でレンタル可能な作品のみをご紹介します

編集後記 今年11回目を数えた Wiener Wind コンサートは、会場をイギリス館からユニオン教会に移して3回目となりました。なんとといっても、座席数が1.5倍に増えたことで多くの方ににご来場頂けるようになり、今年は75名のお客様を迎えました。昨年は赤字を出してしまいましたが今年は500円の料金アップにご協力頂いたことが功を奏し、なんと、458円の黒字に! 笑ってしまうほど僅かな黒字で恐縮ですが、赤字続きだったイギリス館時代に比べるとスタッフの心のゆとりが違います。/ また、オルガンの話でも書きましたがユニオン教会の、上から降るようなヴァイオリンの音の響きは、伊都さんがヨーロッパでよく経験したという、教会ならではのものではないでしょうか。/ と言っても、イギリス館の音が悪いわけじゃありませんよ! 10月22日は芸術の秋に相応しい試み、ぜひいらして下さいね!! (ゆ)

発行: 加納伊都後援会 TRAU BEN
〒231-0835 横浜市中区根岸加曾台 15
TEL: 045-622-6780
FAX: 045-621-6423
Email: trauben@itokanoh.com
Homepage: itokanoh.com